

令和4年(2022年)10月25日

西宮市議会議長 坂上 明 様

教育こども常任委員会 管内視察報告書

■視察日時 令和4年(2022年)10月7日(金)
午前9時15分から午後0時30分まで

■視察委員 委員長 一色 風子
副委員長 大迫 純司郎
委員 大川原 成彦
" 佐藤 みち子
" 篠原 正寛
" 多田 裕
" 田中正剛
" 宮本 けいこ

■視察先 ①安井幼稚園 西宮市平松町6番7号
②甲東幼稚園 西宮市甲東園1丁目2番15号

■視察事項 認定こども園移行にあたっての経緯と実情について

■視察概要

本年度委員会の施策研究テーマのうち「保育所整備の将来像と今後求められる保育所のあり方について」の研究・協議を始めました。

今後出生数が減少する中でいつかは保育所が過大供給になる可能性があるという将来を見据えつつ、現在ある保育所待機児童という大きな市の課題を解消しなければなりません。

保育所整備に関しては様々な手法がありますが、こどもの生活の場となる保育の質も担保しつつ保育を必要とする家庭に対して受け皿を拡大することが一番の目的となります。その中で既存施設を活用し新たな保育所整備に頼らない手法として、幼稚園の認定こども園化があります。

この度の管内視察では実際に市内の私立幼稚園から認定こども園に移行された園を視察させていただき移行に際する課題や保育の現状を見学させていただき、今後の施策研究を進めるための判断材料とするため訪問させていただきました。

■意見・感想

それぞれの園で認定こども園への移行、それに伴う体制や環境整備についての説明を受け、保育の様子を見学させていただきました。

早くから移行に関して進めてくださっていた2園ではあるものの、制度が発展途中、経営や運営に苦勞されている様子が伺えました。運営方法が違う中で移行を進めるにあたって、市への相談についても内容により各課それぞれに問い合わせをしなければならず、窓口を一本化することで移行の負担軽減につながるのではないかと思います。また、3号認定のお子さんを園で預かるためには施設や人員体制など多くのハードルがあり、既存園を改修して運用することの難しさも感じました。職員に対しても今までの幼稚園とは違う運用となるためギャップもあり配慮が必要な部分もあると感じました。

幼稚園という幼児教育という面から保育が必要な家庭も含めた保護者への対応や日々の活動のあり方など、今までに積み上げてきた園の歴史から新たな姿勢で臨むことが必要になる現実との折り合いをどのようにつけていくのか、内情は簡単ではないように感じますが、社会の変化に対応されていこうとする園の努力も見ることができ、今後の認定こども園への移行に際し必要な支援が少し見えたように思います。

ただ、こどもたちは1号認定であろうと2号認定であろうと何も変わらず過ごしているように見受けられ、視察に来た大人に対しても手を振って笑顔で迎え入れていただき、とてもありがたかったです。

■視察風景

(安井幼稚園)



(甲東幼稚園)



以上